

学校教育目標	「共に学び、たくましく、豊かな心」をもった生徒を育てます。 (知・開) (体) (徳・公)			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎・基本を身につけ、主体的に考え・学び、社会の動向をとらえ、生き抜く知恵を育てます。(知)</li> <li>・自分を律し、人を思いやる優しい心を育てます。(徳)</li> <li>・自ら健康を保持増進し、心身ともたくましく生きる力を育てます。(体)</li> <li>・地域や社会のため、自分の役割や働くことの意義を理解し、行動する力を育てます。(公)</li> <li>・多様性を尊重し、コミュニケーションを通して、共に新たな価値を見出す力を育てます。(開)</li> </ul>			
学校概要	創立 62 周年	学校長 青木 美穂	副校長 上城 康博	二 学期制
	児童生徒数: 273 人	主な関係校: 西柴小学校 八景小学校		
個別支援学級: 2				

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	西柴中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける育成を目指す資質・能力を踏まえた「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎・基本、主体的に考え・学ぶ、社会の動向をとらえる、生き抜く知恵</li> <li>・自分を律す、人を思いやる優しい心</li> <li>・自ら健康を保持増進する、心身ともたくましく生きる力</li> <li>・自分の役割や働くことを理解し、行動する</li> <li>・多様性を尊重する、コミュニケーション力、共に新たな価値を見出す力</li> </ul>	自己肯定感を育成する指導の工夫	<p>豊かな関わり合いの中で、自他の多様性を尊重し、変化の激しい社会を生きていく子ども</p> <p>小中一貫教育推進のため、小中ブロックで連携・協働して、9年間で育てたい子ども像を共有したうえで、小学校の授業参観、中学校の授業公開を行う。また、小中合同授業研究会において発達段階に応じて「共通取組項目」の内容を検討する。児童生徒交流日に行われる生徒会による学校紹介や部活動の見学で積極的に児童・生徒の交流を図る。</p>

中期取組目標	<p>* 生徒一人ひとりが自他を尊重し、心豊かに向上心を持って学ぶことができる学校を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○向上心を持ち主体的に学ぶことができる心身共にたくましい生徒を育てるため、授業力の向上に努めます。</li> <li>○基本的な生活習慣を身につけ、自他を尊重し円滑なコミュニケーションを図りながら、集団の中で自分なりに活躍することができる生徒を育てるため、組織的な生徒理解と生活指導に努めます。</li> <li>○地域や世界の人々と環境を大切にすることをもち、進んで社会に貢献する意欲を持つ生徒を育てるため、SDGsの視点からの指導に努めます。</li> </ul>
--------	--

重点取組分野	具体的取組
知 授業改善	①各教科が主体的・協働的な学びを積極的に取り入れた授業形態を展開したり、ICTを効果的に活用した授業展開したりすることで、生徒の資質能力の育成を図る。 ②教員相互の授業見学及び研究授業や校内授業研を行う。また、小中一貫教育推進ブロックで授業研を行うことで小中のつながりを大切にする。 ③図書館の環境・内容の充実をさせて朝読書を継続し、読解力の向上を図る。
担当 学習指導部	
徳 人権教育	①人権作文発表会の取組を通して、一人ひとりの考え方や捉え方に違いがあることを知るとともに、自らの豊かな生き方につなげることができるよう、多様性を尊重し他者とのつながりを大切にしようとする姿勢を育む。②道徳の授業にグループディスカッションや協働学習を積極的に取り入れることで、他者の意見や考えに触れ合いながら自らの学びを深めていこうとする態度を育む。③道徳の授業にICTを取り入れながら、対面での自己表現が困難な生徒や教室での学習に参加できない生徒なども参加できるよう、誰一人取り残さない授業づくりを心がける。
担当 道徳推進担当	
体 健康教育	①保健体育の授業を通して、生徒一人ひとりがいつでもどこでも誰とでも自ら進んで他者との関わりをもち、運動に取り組めるように、協働的な学びの場を積極的につくり、基礎基本となる知識・技能を身につけた上でさらなる発展を目指す。 ②様々な行事や活動を通して、望ましい生活習慣や楽しく運動する習慣を身につけさせる環境を整え、心身の健康を保持増進しようとする意識を育てる。
担当 保健体育・保健安全指導部	
公開 国際教育	①各学年の平和学習では、世界の情勢に目を向け、自分たちにはできることは何かを考えながら平和な世界を尊重する意識を高める。②WFP エッセイコンテストや国際平和スピーチコンテスト、JOCAのキャリアプログラムを通して、海外への関心を高めるとともに、SDGsの学習を充実させ、自分のできる具体的な取組みを考え、国際社会に貢献できるグローバルな視点をもった生徒の育成に努める。③ICTを積極的に活用し、オーストラリアとの交流を充実させ、日本との違いを知り、他国を尊重することのできる態度を育成する。
担当 道徳・人権・国際・英語	
地域連携・学校運営協議会	①地域社会で行われる各種取組に興味関心を持ち、積極的な関わりを持つことができるよう、ボランティア活動の募集などを周知徹底し、意欲的な参加によって、自らが地域における担い手になるという意識を育み、自助・共助・公助の必要性を学ぶ機会をつくる。 ②各行事、前後期の学校評価を学校運営協議会からの意見を取り入れながら研修、重点項目の評価を行い、振り返り内容も検討、変化に対応したものにしていく。
担当 地域連携・教務部	
いじめへの対応	①学校生活アンケートやY-Pアセスメントを活用し、生徒の悩みや困り感についての情報共有を徹底し、問題の早期発見・解決に努める。また、教職員自らが問題提起や課題意識をもち、その解決・改善を図ることで生徒の自己有用感・肯定感の醸成につなげる。 ②家庭や地域、子どもの健全育成に関わる関係機関との連絡を密にとり、すみやかな行動連携を通したより強固な関係構築を推し進めていく。
担当 生徒支援部	
児童生徒指導	①学校行事を通して、生徒一人ひとりがそれぞれの役割を自覚しながら互いに助け合い、ひとつのことを成し遂げることの大切さを実感させ、自分の存在意義を見出せるよう支援する。 ②生徒同士が互いに支え合うことの大切さを自覚しながら問題解決をし、自身がかけがえのない存在であることを気づかせるように支援していじめをさせない環境づくりを意識する。
担当 特活指導部	
人材育成・組織運営(働き方)	①校務分掌の長に多くの人材が関わることで、職務を分散することができる。また、学校運営に多方面からの意見を取り入れることができ、組織の活性化を図る。 ②既存会議を有効に使い、有意義な会議の運営に努める。引き続き毎朝主任会を行うことで、主要な情報を学校全体で随時共有し、業務の効率化を図る。
担当 教務部	
	c9
担当	
	c10
担当	